
灰空から青空。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

灰空から青空。

【Zコード】

Z1635A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

大袈裟に聞こえるかもしれないけど、世界が緩やかに螺旋状になつてしまふような恋をした。

何時もと、いつもと同じだつたんだ。

朝食の内容も。灰色の空も。柔らかいアスファルトも。色がない花も。煙草の斑模様の味も。

でも僕は恋をした。すべての世界が緩やかに螺旋を描き、感じる全てが嘘のように色を変え、吐き出す吐息が辺りを吹き飛ばしていく。大袈裟かもしれないが、それが僕の恋だ。

授業をさぼつて屋上にでた。空は相変わらずの灰色で、特になにも変わらない、いつもと同じような一日が始まった気がした。足元にある、風雨を浴びぼろぼろになつたバレー・ボールを蹴り飛ばして、荒れた地面の屋上をフラフラと子供の玩具のように歩いていくと氣分がよかつた。

世界が僕だけのものになつた氣さえした。
鎧びてぼろぼろになつた鉄柵から校舎の裏を覗くと、予想以上にサボつている人が見え、現実に戻された。

鐵柵にもたれかけ、ポケットから煙草を出し火をつけた。小さなころ父に煙草の煙が空に届いて雲になるんだよと教えられ。友達に自身ありげに説明したら馬鹿にされた。

でも僕はそれを今でも信じている。

ゆうべつと煙を空に吹き出した。やつぱり雲が一つ増えた。

扉が開く音がして、あわてた僕はどうするにもできず、そのまま屋上から落ちてしまった。

壊れてしまつた鉄柵が見える。僕の名前を叫ぶ人がいる。僕を叫ぶ

人がいる。

僕は重力に逆らわず、肺にある煙を校舎に吹いた。その煙は、空に届いて雲になるのではなく、校舎の窓から好奇の目で落ちる僕を見る彼女の前で雲になつた。

まるで雲にのったかミサマのようだ。かミサマ?

地面に落ちた瞬間に、心中にも衝撃が走った。すべての世界が緩やかに螺旋を描き、感じる全てが嘘のように色を変え、吐き出す吐息が辺りを吹き飛ばしていくような衝撃が肉体の痛みを凌駕した気がした。

私は、彼から目が離せなかつた。まるで眠るような格好で落ちる彼が、なぜか異様に気になつたの。まるで眠つている全てのモノタチを振り動かし。開始のベルを高らかに鳴らす鳥のようだわ。大袈裟かもしれなけれどそれが私の彼に対する気持ち。

僕が目を覚ましたらそこは、何時もと違っていた。

全部が。

隙間から空が見える。
まず僕は病院のベットに拘束されていた。身動きがとれず、全身に包帯が巻いてあるような気がした。点滴が見える。白いカーテンの

それだけかい？

違う。

世界が不思議の塊になつた。

彼女を思い出すと、耳に届く全ての音が僕を高揚させ。目に見える全てが果てしなく尊くなる。

僕は、彼女に恋をした。事故よりも事実としてここにある。

その事実を受け入れたら僕は激しい睡魔に襲われた。

僕は空を高く、高く飛んでいる。

何もない広い大陸をどこに行けばいいのかは分からぬけれど、

彼女の物語とまつて業は話つかぬ。

初めまして。

「ねえ鳥さん、私はどこに行けばいいの？」
「はとても広すぎて、
私には分からぬの。
あなたの大きな翼で飛んで、私の行くべき路を教えてくれない
かしら？」

僕は君に聞きたいことがあるんだ。

「ねえ、お願いだから私を救つてくれないかしら？ とても不安なの。

君の名前が知りたいんだ。今はそれだけで僕は全てがうまく行く
気がするんだ。

「お願い！」

不安なの。

頼るのはあなたしかいないの。

1

どうして泣くんかい？頼むから泣かないでくれ。

僕は彼女の肩から羽ばたいて、彼女の涙を口で受け止めた。
何が彼女を泣かせたのか考えながら空を飛んでいたら、朝日が昇つ
てきた。

その向こうにある鐘を鳴らせば彼女は泣き止むのかもしね。だ
から業は、急いで朝日に向かつた。

体ごと鐘にぶつかつていつた。

高らかに気持ちよく鐘の音が吹いた。彼女のと二三まで吹いていた。

得支の源在韓水一
根

目が覚めたの。そしたらきずいたの。私は彼に恋をしてるって。まるで眠るように落ちる彼に。窓を開けたら、耳に届いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1635a/>

灰空から青空。

2010年12月18日21時24分発行